

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域の行事へ参加するだけでなく、地域から求められる役割を担うなど、利用者の生活が地域に深く根ざすための環境と機会を提供している
	内容	事業所は地域の自治会や町内会、小学校やそのPTAとの長年に亘る関係を維持している。それを基盤に利用者は、地域のお祭りなどに一人の住民として参加するだけでなく、自主生産品を消費者のニーズに合わせて開発し販売したり、講師として紙すきなどの持てる技術をワークショップ受講者に提供したりする機会を得ている。そのほか、一人の障害者としてその現状をイベントの際に発信することにより地域における障害への理解と啓発に努める役割を担う機会も得ており、多角的なアプローチによって利用者との関係をより深める取り組みを行っている。
2	タイトル	利用者自身が生活の主体者である事を意識するとともに、社会生活の礎として利用者の自立を後押しするための取り組みを行っている
	内容	個別支援に必要な情報の把握に努め、利用者一人ひとりの要望に基づいた個別支援計画を利用者と共に策定している。その計画に基づき、利用者ごとに配置された担当職員を中心に日々の支援を確認しているとともに、利用者自身が日々のプログラムを選択するなど、利用者が生活の主体者である事を意識し合える関わりに取り組んでいる。また、事業所行事の運営や準備の際に他の利用者や職員と協働したり、利用者集団の運営による自治会活動への参加が得られるなど、利用者の社会生活の礎として利用者の自立を後押しするための取り組みを展開している。
3	タイトル	栄養士と看護職員が密接に連携して、利用者個々の心身の健康や食の安全と安心をはかるとともに、自立につながる取り組みを行っている
	内容	栄養士と看護職員とが密接に連携しながら、利用者一人ひとりの心身の健康状態や食の状況を日常的に把握して必要な支援につなげている。また、自立という側面から利用者自身が生活の中で自身の食生活や健康管理に興味をもち、可能な範囲での自己管理ができることにつながる支援への取り組みも、栄養士と看護職員が中心となり工夫して行っている。利用者を取りまく家族や職員に対しても、それぞれが抱える不安などに対する相談に対応するなど、ともに利用者を支援する立場として「支援者に対する支援」の必要性を強く認識した取り組みも行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員にとって分かりやすく身近な評価項目などの設定、将来目標を提示し、さらなる人材の育成・やる気や働きがいの向上に活かされたい
	内容	トータルな人材マネジメントの推進に向け、新たな人事考課制度を整え職員研修実施要綱を作成し、人材の育成に努め、計画的な新任職員の採用・確保、OJTの対応に力を入れ人材の育成に向け積極的な取り組みを進めている。また、求められる職員像が示されており、職員にとって分かりやすく身近な評価項目や具体的な育成につながる将来目標の明確な設定(キャリアパス)が望まれる。キャリアパスを通して目指す内容を示し、より具体的な目標を定めた個人別の育成計画策定につなげ、さらなる人材の育成・職員のやる気や働きがいの向上に活かされたい。
2	タイトル	利用者の利便性、職員が働きやすい環境の整備に努めており、施設の改修などを計画的に進めるための位置づけを明確にされたい
	内容	施設運営に関しては事業計画に沿って予算編成を行い、利用者が使いやすく、職員が働きやすい環境の整備に努めている。施設の改修・修繕に関しては行政主導の対応となっており、トイレの壁の改修や外壁の剥離、雨漏りへの対応などがなかなか進まない現状もあり、職員や利用者、保護者からも多くの要望が寄せられている。施設独自の中期計画を取りまとめ、計画的に施設の改修などを進められるよう取り組みを意識することで、利用者の安全・安心の確保、地域ニーズに基づく福祉避難所の機能の向上、行政へのアピールにつなげていくことも検討されたい。
3	タイトル	より質の高い福祉サービスを利用者に提供できるよう社会情勢や現状の支援向上につながる業務マニュアルなどの見直し、作成を進められたい
	内容	通所施設として安定した支援サービスの提供を目指し、業務マニュアルが作成され、業務に合わせたマニュアル・手順を整えている。社会情勢に合わせて緊急時対応マニュアル・不法侵入者対応マニュアル・水防マニュアル(分場)は再検討し、改定している。他のマニュアルも現況に適さず、考慮する必要がある。今年度の事業計画に支援マニュアルの見直しを盛り込み、より良い支援につながる取組みを進めている。事業所全体(全ての職種)の取組みとして非常勤職員も支援業務に関する認知度を高め、さらに実務に合った業務マニュアルの作成を進められたい。